

第4回保健科学研究所国際シンポジウム報告

The Fourth FHS International Conference (FHS 2019): Putting the Pieces Together:
Creating a New Era of Health Sciences in Asia

国際交流専門部会 部会長 山内 太郎

2019年7月5日、保健科学研究所にて第4回国際シンポジウム(The 4th FHS International Conference, FHS 2019)を開催いたしました。保健科学研究所(Faculty of Health Sciences, FHS)が主催する国際シンポジウムは2013年から隔年開催しており、第4回目を迎えました。参加者数は、前回の250名からさらに増えて270名余りとなりました。今回は、協定校として台北医学大学からDr.



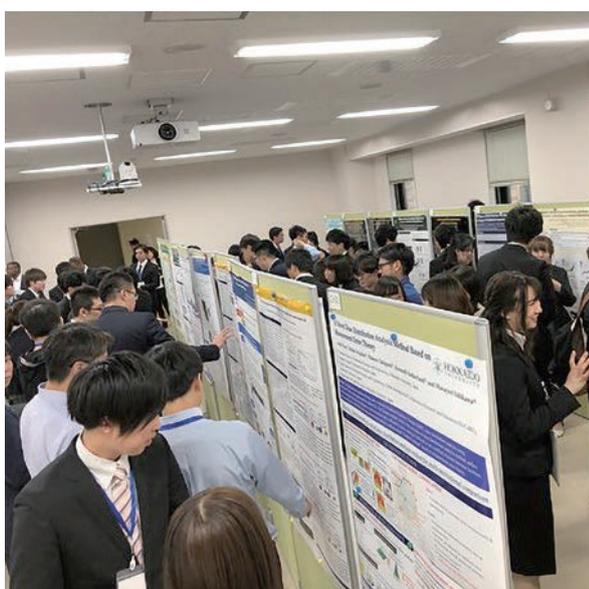
講演の様子

Cia-Hwa Lee, 高雄医学大学からDr. Chien-Chih Ke, Dr. Yeou-Lih Huang, Dr. Shih-Fen Hsiao, チュラロンコン大学からDr. Chitanongk Gaogasigam, Dr. Thititip Tippayamontri, Dr. Sujitra Boonyong, 香港大学からDr. Denise Shuk Ting Cheung, 中国科学院大学からDr. Wen-Jun Dingを招待した他、保健科学研究所から大久保寅彦先生、千見寺貴子先生、学術研究員の佐井旭さんを加えた計12名で講演会を実施しました。看護学、臨床検査学、放射線医学、理学・作業療法学、国際保健学といった広範な保健医療分野をカバーするシンポジウムになりました。

講演に加えて、第2回国際シンポジウム(FHS 2015)から恒例となっている、大学院生による、一人1分間の口頭ポスター紹介(「ショットガン・プレゼンテーション」)に続いて、ポスター発表が行われ、77題のポスターが、E棟1階の多目的室に所狭しと張り巡らされました。午前と午後それぞれ90分に及ぶポスターセッションは終始活気に溢れ、大学院生は懸命に英語で自らの研究を招待研究者に説明し、活発なディスカッションが行われました。大学院生が海外で開催される国際学会に参加する機会は限られており、本国際シンポジウムは大学院生にとって大変貴重な機会です。この経験を今後の研究活動に活かしてもらいたいと期待しています。

シンポジウム終了後の立食パーティーでは、アットホームな雰囲気の中、国内・海外からの招待講演者、保健科学研究所の教員、大学院生が交流を深めました。パーティーで、ポスター発表の大学院生に贈られる「Best Presentation Award」の発表があり、宮尾珠央さん(生体量子科学M2)、高紫君さん(健康科学M1)の2名が受賞しました。

末筆になりましたが、海外からの招待講演者各位、座長および発表を引き受けていただいた保健科学研究所の教員の方々、当日および準備にご尽力いただいた国際交流専門部会員および事務の方々、保健科学研究所長をはじめ参加いただいた教員、大学院生、学部生のみなさまに感謝申し上げます。



ポスターセッションの様子